

島根県インターアクトクラブ 韓国研修

研修報告



第1回 /2012.4.29~5.4
第2回 /2013.4.30~5.5

韓国の中高校生、漂着ごみ回収

出雲の高校生と環境問題考える



出雲市大社町の海岸に漂着したごみを集める日韓の中高校生

韓国の中高生六人が二十五日、出雲西高校インターアクトクラブのメンバーと一緒に、出雲市大社町の海岸に

漂着したごみを拾い集め、環境問題への理解を深めた。

六人は、韓国のNPO「韓日文化交流フォー

ラム」が主催した「綺麗な海を守るための韓日青少年の奉仕活動」プログラムに参加した高校生五人と中学生一人。韓国から捨てたごみが日本海沿岸に漂着する中、ごみを拾うことで相互理解を深めようとする取り組みで、昨年到现在二回目。一行は、入り江に打ち上げられていた魚具やペットボトルなど約二立方分の漂着ごみを拾い集めた。最年少のキム・テグン君(中学三年生)は「多くの韓国文化が日本に渡ってきていたことは知っていたが、こんなにたくさんハングル語が書かれたごみが流れ着いているのは知らなかつ

た。その量に驚いた」と話した。

同NPO代表のキム・ヒョンジュンさんは

「海は国・民族を越えて繋がっている。意図的でなくとも、ごみが島根に流れ着くことを

考えることを通じて青少年の交流が生まれてほしい。昨年参加した

子どもからは、帰国後生活の中で出すごみを減らし、周辺の人には

国を越えてごみが流れることを話すようになったという話を、私にしてくれた」と話した。

ごみ拾いの後は、出雲西高校インターアクトクラブの渡部学顧問からEM団子と川の水質浄化について説明を聞き、約二千個のEM団子を赤川に投入した。

六人は二十六日と二十七日も海岸清掃や高校生との交流を行った後、二十九日に韓国に帰国する。

山陰中央新報

2011年(平成23年)7月27日(水曜日)

韓国の中高校生と海岸清掃し交流

出雲西高校 出雲市下古志町の出雲西高インターアクトクラブ



海岸清掃を終え、意見交換する日韓の生徒

の生徒が26日、同市を訪れた韓国の中高校生と一緒に海岸清掃し、海流が運んでくるごみ対策などで意見を交わした。

取り組む韓国のNPO法人、韓日社会文化フォーラムが、海岸の清掃活動などを通して、相互理解を深めることを狙いに、昨年に続き企画した。

22日に来県し、宍道湖岸や海岸で清掃活動をした

り、出雲エネルギーセンターを見学したりして29日まで滞在する。

大社町の湊原海岸では、同クラブの生徒約15人と、韓国の中高校生6人が一緒に清掃。約3000の浜辺を歩き、ペットボトルや発泡スチロール、流木などを拾い集めた。

続く交流会では、「ハングルが書かれたごみが多くて驚いた。申し訳ない気持ち」一緒に努力すれば地球全体の環境が良くなるなどと韓国からの参加者が感想を述べた。

同クラブの加藤竜樹部長(77)は「海岸清掃で交流できてよかった。韓国は隣の国、少しずつ交流を深めたい」と話した。

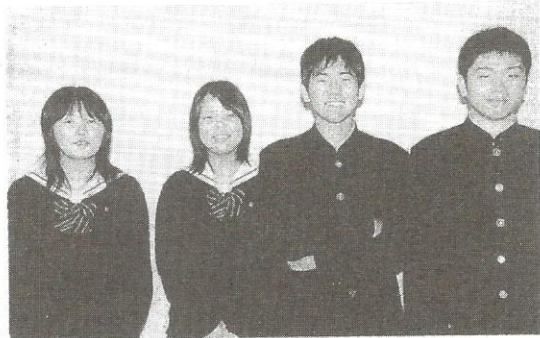
ホームステイ先の学生と共に



出雲西高校(出雲市下志町)のインターアクトクラブの三年生九人が、韓国のNPO団体「韓日社会文化フォーラム(金賢廷代表)」の招きで、四月二十九日から五月四日の五泊六日の日程で韓国研修を行い、帰国した。

出雲西高インターアクトクラブ

同クラブは、海岸清掃のボランティア活動をきっかけに韓国の高校生との交流を深めてきた。韓国からは中高生が海岸清掃などの活動で出雲を訪れているが、出雲から韓国への訪問はこれまでに



話を聞いた城下真穂さん、武田夏希さん、妹尾拓哉くん、手銭駿太くん

く、同クラブの活動に感銘を受けた金代表の働きかけで韓国研修が実現した。韓国では、自給自足で生活する全寮制のサンマル高校を訪れ、韓国の生徒の通訳で、出雲市やクラブ活動の紹介、日韓の討

士との親睦もはかった。論会、農業体験や授業見学を行った。生徒たちは、韓国の高校では、現代史から学び、日本や外国のことなどにも詳しく、日本語や英語を話せる生徒も多

いことを知った。寄宿舎にも宿泊し、生徒同士の親睦もはかった。極的。外国のことも詳

社会見学として訪れた聖アンナ老人ホームでは、日本のような介を知らなげやいけない護職はなく、看護師や一般の人が世話をしている様子を学んだ。アル病院は、病室や対応が患者さんの心の負担が少ないように配慮された。武田夏希さんは「ワリドゥアル病院では、外国に比べて作られている国際的な施設や患者に対する対応を学んだ。え方など日本とは根本的に違うと感じたことが一番の経験になりました」と言ったのは妹尾拓哉君。手銭駿太君は「老人ホームは、愛情を持って接して日本と変わらぬと思

韓国訪問で文化や国際感覚学ぶ

日韓の中高生、漂着ごみを回収



韓国の中高生十八人と出雲西高校インターアクトクラブの二十人が二十六日、韓国由来の漂着ゴミが多い出雲市大社町のひろげの浜海岸で清掃活動を行った。

海岸のごみを回収する韓国の中高生たち

ハンゲル文字入りの多さ実感

この中高生は、韓国のNPO「韓日社会文化フォーラム(キム・ヒョンジョン代表)」が主催した「綺麗な海を守るための韓日青少年の奉仕活動」プログラムに参加した韓国の中高生。韓国から捨てたゴミが日本海沿岸に漂着する中で、ゴミを拾うことで相互理解を深めようとするもの。

一昨年から始められ今回が三回目。ひろげの浜の清掃活動では、入り江に打ち上げられた瓶やペットボトルなどを拾い集め、ハンゲル文字の入ったゴミの多さに驚きの声を上げていた。

出雲市駅南を流れる赤川では、EM団子と川の水質浄化について出雲西高のインターアクトクラブの足立健嘉君(三年生)から説明

を聞き、約千五百個のEM団子を赤川に投入した。続く交流会では、同クラブの活動報告を聞き親ほくをはかった。今年で二回目の参加というキム・テケン君(高校一年生)は「日本の高校生と韓国の中高生と一緒に海岸清掃するのは、国際交流する上ですごく有意義」と話した。

一行は、大田市や松江市の海岸清掃や観光も行き、三十一日に帰国する予定。

共同作業で友好の汗

日韓高校生が清掃活動

出雲

韓国の高校生が来県し、海岸清掃などを通して県内の高校生と「綺麗な海を守るための日韓青少年の海岸清掃活動」を二十七日から二十九日までの期間行った。最終日となる二十九日は出雲市市内を流れ

る赤川へ水質改善のためEMダンゴの投入や多伎町のキララビーチ清掃などを体験した。日韓の高校生同士の交流は、県が主催し今年で三年目。今年には韓国から二十人の生徒が来県し、同日、出雲西

高校(出雲市下古志町)のインターアクトクラブの生徒や、出雲北陵高校(同市西林木町)、石見鶴巻館高校(江津市渡津町)の生徒と交流した。一行はビッグハート

顔合わせし、今年五月に韓国研修を行った三校の生徒による体験発表を聞き、今年八月に行われる出雲キャンドルナイトで使われるキャンドルのデザインを一緒に考えた。その後、同町を流れる赤川に移動し、EMダンゴを川中に投入。海岸清掃などの環境美化活動を体験した。



赤川にEMダンゴを投入する参加者=29日、赤川

が大変だったことが印象的、「善し悪しはあると思ったが、日本人

は)区別なく接してくれた」など感想を話した。

韓国研修の目的

1. 親睦を深める

島根県のインターアクトの仲間と寝食を共にし、より一層の親睦を深めることによって、インターアクトの友情を深めよう。

2. 国際理解を深める

韓国研修の体験を通して、韓国の政治・経済・風土・文化・慣習に触れ、国際理解を深めよう。

3. 友好親善をはかる

各国の高校生との交流・ホームステイを通して、アジアの同朋として、日本と韓国の将来につながるような友好親善をはかろう。

4. 自己を見つめ直す

団体行動の中でマナーを守り、韓国の高校生や様々な人々と出会い、異文化を体験することによって、今一度自分を見つめ直そう。

感動はその人の人生を変える！とされています。

韓国研修は自己を向上させるチャンスです。

楽しい思い出を作ることはもちろんのこと、日韓の国際交流を深め、この研修を意義あるものにしよう！

はじめに

出雲西高等学校 IAC 顧問
渡部 學



島根県インターアクトクラブの顧問教師は島根県ブロック協議会において、フィリピン研修はとても有意義であったが経費がかかりすぎるため見直しをし、以前から交流のあった韓国研修を実施することにしました。第1回目は、出雲西高校IACの部員9名が自費で参加し、今回第2回目は、開星高校1名、出雲北陵高校2名、石見智翠館高校2名、出雲西高校2名、生徒7名、顧問教師2名の計9名が参加しました。

第2回目は経費の面ではロータリークラブの皆様の支援を受け計画をしました。

また、事業計画では、島根県庁の国際交流課の方々の協力もありました。

研修は、平成25年4月30日(火)～5月5日(日) 5泊6日で行われました。平成25年5月といえば、北朝鮮がミサイルを発射すると脅している状況であり不安はありましたが、ソウルの市内は北朝鮮の脅威は全くなく人々は平穏な日常を過ごしていました。

この研修は、天候に恵まれ、6日間晴天で、多少暑い感はありましたが、過ごしやすかったです。

韓国の方たちはぶっきらぼうなところがありますが、皆親切で、優しい人たちが多かったように思います。

仁川空港からソウル市まで地下鉄にりましたが、大きな荷物を持っていると座席にすわっているおばさんが、「重そうだね、私が持ってあげよう。」と言って持って下さる方たちも数人おられ、優しい人たちが多く感じました。

また、韓国と北朝鮮は、同じ民族でありながら、北と南に分断され国境があるという特殊な国です。

ふと私は若い頃流行していたイムジン河という歌を思い出しました。

イムジン河 (臨津河)

イムジン河 水清く
とうとうと流る
水鳥自由に むらがり飛びかうよ
我が祖国 南の地
おもいははるか
イムジン河 水清く
とうとうと流る

イムジン河 空遠く
虹よかかっておくれ
河よ おもいを伝えておくれ
ふるさとをいつまでも
忘れはしない
イムジン河 水清く
とうとうと流る

北の大地から
南の空へ
飛びゆく鳥よ 自由の使者よ
だれが祖国を
二つに分けてしまったの
誰が祖国を分けてしまったの

この歌の内容は、38度線を通る「イムジン河」によって北朝鮮と韓国に分かれた朝鮮半島の現実を歌ったものです。作者は「イムジン河」を渡っていく鳥を見つめながら、なぜ私は南の故郷（韓国）に帰れないのか。誰が、この祖国を分断したのかを鳥に問いかけ故郷への想いを募らせています。この38度線付近にある愛妓峰平和展望台へ行き、同じ民族が分断された悲しみを体験しました。

また、特養の老人ホーム「聖アンナの家」ではボランティアを行い、韓国も、日本と同じ超高齢化社会を迎えるという現実を見ました。さらに世界的なヘルニアの病院である韓国最先端のウリドル病院を見学し、最新の医療機器、医療体制を体験し、生徒達は驚嘆していました。

その後、ソウル観光高校の生徒との交流、古代の太鼓である「ナンタ」を見学し、ソウル観光高校の生徒達と共に「ナンタ」を体験し、楽しい時を過ごしました。

ただ、韓国の高校生は、大学の受験のため学校で夜の11時まで受験勉強を行い、大学に不合格をすれば、男子は軍隊に行かねばならない。そのため、部活動はできない。特に運動部は、ほとんどないと言っていました。また、受験に失敗すると自殺する生徒もいるという現状に、IACの生徒達は深刻な顔をしていました。大学の数が圧倒的に少ない韓国、短大、専門学校という学校は中途半端だからと言って作らないと言っており、逃げ場のない進学状況は、厳しいと言わざるを得ませんでした。

ソウル観光高校の校長先生は「就職を考えたとき、私達は、日本の企業を選択肢の1つとして薦めています。」と言われました。「日本の企業の方が福利厚生は優れており、安定しています。また、中に入って平等性も高い、差別も少ない。」と言われました。また、ある韓国企業の社長さんは平成24、25年当時のことですが、「韓国人は血液型がB型が多く経済が上昇している時は、とてつもなく伸びるが、経済が下降すると、あっという間に大不況に陥る。人物的にも感情的になる人が多く冷静に物事を見られない人が多い。」ウォン高になると、またたく間に経済が落ちこんでいくと非常に心配しておられました。この予言が、現在（平成26年）的中しており私は複雑な思いです。そして、私が「韓国人は、そうするとラテン系民族と同じなんですね。」と言うと「そうです、まさしく喜怒哀楽の激しいラテン系民族ですよ。」と言われた。

私達が訪れた、平成24、25年は韓国経済は活気がありました。今の落ちこみは考えられません。この5泊6日の研修、韓国の方たちは皆、明るく親切でIACの生徒達はとても好感を持ったと思います。ホームステイも行い、韓国の家庭の様子も体験し、韓国の人たちは、一見、無愛想だが、本心は人間性が豊かで、愛情があることが理解できたと思います。現在、日本と韓国は政治家達の軋轢により日韓関係は冷却していますが、国民レベルでは日本に反感を持つ人は少なく、良識ある人は、日本と良い関係を築きたいと思っている人が多いとIACの生徒達は感じたのではないかと思います。

これからの日韓関係、若者たちの交流を頻繁に行えば、若い感覚で差別なくもっと良い関係が結べると思います。その点で今回の研修は有意義であったと思います。そして今回の研修の様子を、それぞれ生徒が個性あふれる表現で感想を述べています。一読していただき、またご意見をお聞かせ下さい。よろしくお願い致します。

尚、この研修を企画するにあたりロータリークラブの皆様方、IAC顧問の先生方、島根県庁国際交流課の皆様には、ひとかたならぬお世話になりました。

心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

第1回(2012年)韓国訪問事業日程

【期 間】 2012年4月29日(日)～5月4日(金) 5泊6日

【参加者】 学生9名(男5、女4)、随員(教師)2名 計11名

【同 行】 韓日フォーラムスタッフ1～2名、ウーフスタッフ1名

【日 程】

	日 程	内 容	その他
1 日 目	4/29 (日)	15:00-16:40 米子空港集合、チェックイン 米子空港(15:00発) → 仁川空港(16:40着) OZ163 17:30-19:00 仁川空港 → サンマウル高校 19:30-21:00 夕食 サムギョプサル (豚の三枚肉の焼肉)	【泊】 江華島ペンション <連絡先> ウリコッチャリ 仁川広域市江華群両土面 サムフンリ666-6番地 TEL:+82-32-937-3912 http://www.cochari.com
2 日 目	4/30 (月)	(朝食) ○対面式(全校集会に参加) (昼食) ※詳細プログラム別紙 (夕食)	【泊】 サンマウル高校 学生: 寄宿舍 先生: ペンションウリコッチャリ <連絡先> サンマウル高校 仁川広域市江華群両土面 サムフンリ460番地 TEL:+82-32-937-9801
3 日 目	5/1 (火)	(朝食) (昼食) ※詳細プログラム別紙 (夕食)	【泊】 サンマウル高校 学生: 寄宿舍 先生: ペンションウリコッチャリ
4 日 目	5/2 (水)	(朝食) サンマウル高校 → ソウル市内 12:00-13:00 ○ホストファミリー対面式 ウェルカム昼食会 (解散後、ホームステイ先へ) (夕食)	【泊】 学生: ホストファミリー宅 先生: アストリアホテル <連絡先> アストリアホテル ソウル市中区南学洞13-2 TEL:+82-2-2268-7111 FAX:+82-2-2274-3187
5 日 目	5/3 (木)	10:00 韓屋集合 11:00-12:00 韓服体験 12:30-13:00 (昼食&自由行動) 仁寺洞(イサンドン) 14:00-18:00 ウリドル病院見学 イーマートショッピング 18:30-20:00 (送別会&夕食)	【泊】 ムーン・ゲストハウス <連絡先> ムーン・ゲストハウス ソウル市鐘路区 TEL:+82-2-745-8008
6 日 目	5/4 (金)	6:30-7:30 ホテル発 → 仁川空港 9:30-11:00 仁川空港(9:30発) → 米子空港(11:00着) OZ164	

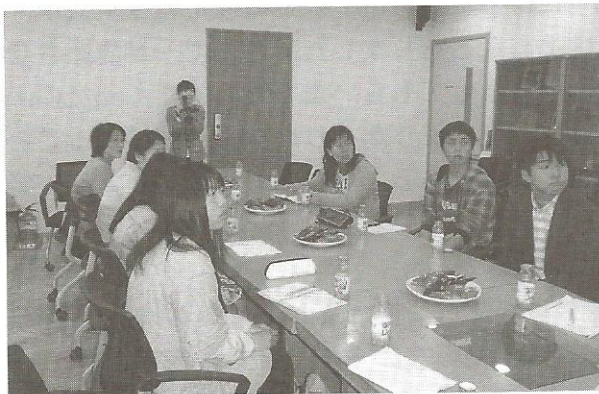
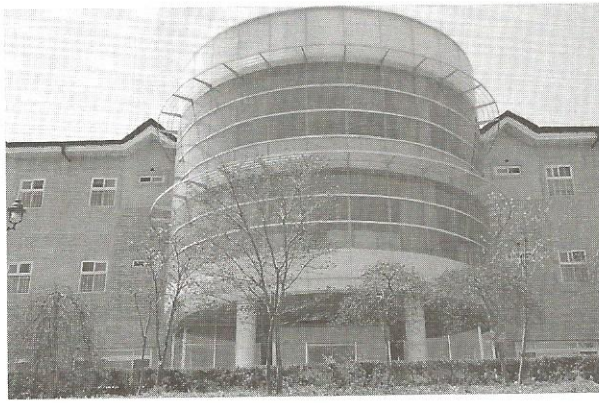
第2回(2013年) 韓国訪問事業日程

【期 間】 2013年4月30日(火)～5月5日(日) 5泊6日
 【参加者】 学生7名(男2、女5)、随員(教師)2名 計9名
 同行：韓日フォーラム日本人スタッフ1名(小倉佑子)

【日 程】

日程	内 容	宿泊先
4/30 (火)	15:00 米子空港 出発 16:40 仁川空港 到着 入国手続き(両替) 17:30 空港鉄道でソウル市内へ移動 →ゲストハウスチェックイン 18:20 弘益大入口駅到着 歓迎会(夕食) →烈鳳チムタク弘益大店(鶏料理) 19:30 →ロイゲストハウスへ(移動手段：徒歩20分) 街を観光しながら、帰る。 荷物整理、入浴、就寝	ロイゲスト ハウス
5/1 (水)	起床、洗面、朝食 9:00 貸切バスで出発(弘益大駅3番出口でp.o.) 10:30 世界文化遺産 江華道コインドル見学 11:30 貸切バスで出発 12:10 昼食 →대교기사食堂 13:40 老人ホーム聖アンナの家 到着 ボランティア活動：2時間 (食事介助、洗い物、掃除、歌披露、キムチ漬け) →院長・事務長の挨拶 15:40 貸切バスで移動 16:40 愛妓峰平和展望台(38度線見学)(戦争の厳しさを体験) →江華平和展望台、江華コインドル見学 18:00 貸切バスでソウルへ移動 19:30 東大門到着 夕食 →タッカンマリ→豚焼肉 20:50 貸切バスで寄宿帰着 入浴、就寝	ロイゲスト ハウス
5/2 (木)	9:00 地下鉄で出発 10:00 ソウルカンナムウリドル病院 国際患者センター最先端病院見学 11:50 ソウル観光高校 到着 12:00 昼食 →高校の食堂(学食を食べる) 韓国の高校生との交流 12:40 ナンタ 学生公演鑑賞 ナンタ体験、学生交流：1時間40分	

日程	内 容		宿泊先
5/2 (木)	13:30	授業見学 (デザート作り授業) カジノの授業見学	ロイゲスト ハウス
	14:00	ソウル観光高校 出発 地下鉄で移動	
	15:00		
	17:00	広蔵市場 観光 明洞見学 夕食 → 분식점	
	19:30	地下鉄で寄宿舎帰着 入浴、就寝	
5/3 (金)	8:00	起床、洗面、朝食	ロイゲスト ハウス
	9:00	出発、地下鉄で移動	
	9:30	景福宮 到着、観覧	
	10:00	日本語ガイドに従い、観覧：1時間	
	12:00	王宮守将交代儀式 鑑賞 →仁寺洞 見学	
	12:45	地下鉄で移動	
	13:00	明洞 到着 昼食 →冷麺+たこ炒め	
	13:55	ソウルグローバル観光文化センター 到着	
	14:00		
	15:00	韓国伝統工芸品づくり：1時間 →母の日のカーネーション作り	
	16:00	韓国伝統服 試着：1時間	
	17:00	韓国最大のスーパーホームプラス見学→地下鉄で宿舎帰着	
	19:00	夕食 →プルコギ(焼肉)→ゲストハウスで他の利用者と交流する。 (振り返り、研修会の感想) 入浴、就寝	
5/4 (土)	9:00	出発 (タクシー) ひろばラウンジに荷物一時保管	ホームステイ
	10:00	梨花女子大学生街散策、ショッピング	
	12:00	昼食 →梨花女子大学生街で日本のさぬきうどん	
	13:00	ホームステイ家族と対面 ソウル半日散策ツアー 参加	
	18:00	各ホストと共に解散→各家庭へ	
5/5 (日)	9:30	ホームステイ家族と一緒に弘益大入口駅に集合 お別れ	
	9:40	空港鉄道で移動	
	10:30	仁川国際空港 到着 出国手続き	
	12:30	仁川空港 出発	
	14:00	米子空港 到着	



■引率者

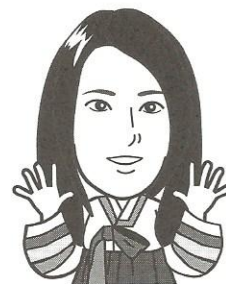
	名 前	性別	学 校 名
団 長	渡 部 學	男	出 雲 西
副団長	梶 谷 純美子	女	出 雲 西

■参加者

	名 前	性別	学 校 名 (学年)
1	石 橋 恵 美	女	開 星 (3年)
2	船 木 ひかり	女	出 雲 北 陵 (2年)
3	兵 庫 実 奈 美	女	出 雲 北 陵 (2年)
4	今 口 純	女	石 見 智 翠 館 (2年)
5	沖 野 恵 太	男	石 見 智 翠 館 (2年)
6	椿 昌 延	男	出 雲 西 (3年)
7	福 田 萌 香	女	出 雲 西 (3年)

韓国研修に参加して

開星高校 3年
石橋 恵美



私は平成25年4月30日～5月5日に韓国へ研修に行きました。5泊6日での研修内容は、現地でのボランティアをしたり、韓国の高校生とふれあったり世界遺産を見たりしました。

出発は、日本を15時に米子空港から出発しました。私は、人生で初の海外旅行だったので、荷物検査からとてもウキウキしていました。無事に出国手続きが終わって、「いざ、韓国へ！」しかし、韓国到着の15分前に気圧の関係で急に左耳が痛くなり、大変な思いをしました。それでも、なんとか韓国に入国することができました。現地で私たちを案内して下さる日本人スタッフの小倉さんと合流し、日本円をウォンに両替して、鉄道やバスで使えるカードをもらい、ソウルへ移動しました。まず、4日間お世話になるゲストハウスへ行きました。とても外観が綺麗で、ゲストハウスの方々は優しく、いいところだと思いました。

荷物を置いて夕飯を食べました。15分位歩いて、東京でいう原宿のような所にある鶏料理を食べに行きました。ほぼ満席のお店でした。初めて本場の韓国料理を食べることができました。すごく美味しかったです。しかし、激辛でした。それから、帰ってお風呂に入り次の日に備えて早めに寝ました。

2日目は、世界遺産の江華島コインドルの見学に行ってから聖アンナの家という老人ホームでボランティア活動をしました。食事介助、歌披露などをしました。ここで一番痛感させられたのは、言葉の壁でした。あるおばあさんを担当させていただきました。すごく元気のよい明るい方でした。自分にとっても話しかけてくださっていました。しかし全く理解することができませんでした。でも、自分なりに表現やしぐさでわかるように努力しました。その努力がわかってもらえたのか、にこやかな表情になられた時は、とても嬉しかったです。もっと韓国語を勉強して改めてふれあうといいなと思いました。

無事ボランティアも終わり、その後は愛妓峰平和展望台に行きました。いわゆる38度線です。もうすぐ先に北朝鮮が見えました。初めて見ました。その光景がとても衝撃的でした。まったく緑がなく山の頂点が尖ってなく自分の想像していた北朝鮮とは全く違いました。その光景は、すごくショックでした。あそこに住んでいる子どもは、緑を知っているのでしょうか。おじいちゃん、おばあちゃんは老後の人生を楽しく過ごしているのでしょうか。そんなことを思ってしまうました。もっと緑を増やし自然豊かな平和な国になってほしいと思います。日本と北朝鮮の問題も早く解決してくれたらと考えました。

3日目は、ソウルカンナムウリドル病院とソウル観光高校に行きました。ウリドル病院はヘルニア専門の病院でした。とても設備がよく驚きました。まず、とてもプライバシーが守られた病院だと思いました。患者さんはとても安心して治療に専念できる環境だと思いました。そして、病院からバスに乗ってすぐのところにある高校に行きました。韓国の高校生はとても元気が良くて明るくて楽しかったです。食堂でご飯を食べ、ナンタという韓国の伝統芸能を見学し、実際に体験したりふれあうことができ、とても貴重な交流をさせていただきました。写真撮影をしたり、おみやげの交換をしたり調理科の見学をして実際に作ったお菓子をもらったりとても楽しい内容でした。

4日目は首都ソウルの街を巡りました。景福宮を見学して昔の韓国の王様の生活の様子や考え方をちょっと知ることができました。昼は本場の冷麺を食べたり、お買い物をしたり、

伝統服のチマチョゴリを着たり、すごく可愛くてテンションが上がりました。記念にみんなで写真を撮りました。宿舎に帰ってからは、歩き疲れてすぐに寝てしまいました。

5日目の最終日は、午前はゆっくり宿舎で帰国の為に荷物などの身支度をして午後からのホームステイに備えました。私は、パク・ソンリョンさんという大学2年生の家にホームステイすることになりました。ソウルから電車で40分位の所に家がありました。ソンリョンさんは学校で日本語を学んでおられたので多少は会話などもすることができました。家に着いてお父様にご挨拶をしてお風呂に入り、ソンリョンさんと一緒に韓国の音楽番組を見たりして、好きな歌手についてお話したり、日本から持ってきたお土産を渡したりしていました。開星高校のパンフレットや島根県のパンフレットも一緒に見ました。お父さんは、お仕事の関係で日本に何度か来たことがあって次は是非松江にも行ってみたいとおっしゃってました。とてもうれしかったです。私は、5泊6日の研修でとても貴重な体験をさせていただきました。学んだことを生かしてこれからの生活をしっかりとしていきたいと思っています。

この研修を企画して下さい、先生方、ロータリークラブの皆様へ感謝致します。



韓服体験

韓国研修の感想

出雲北陵高校 2年
船木 ひかり



この韓国研修に行く前、私は海外に行った事がなく、外国の方とほとんど触れあったことがありませんでした。しかも私の苦手教科は英語で、もちろん韓国語なんて話せるわけもなく、一緒に行ったメンバーも友達一人を除いて初めて会う人達だったので、ちゃんと話せるかきちんとコミュニケーションがとれるのか不安でした。しかし韓国に実際に行ってみると、一緒に行ったメンバーとはすぐに打ち解けることができ、また私達の泊まったROIゲストハウスのオーナーさんをはじめとする現地でお世話になった方々はとても優しい人ばかりで言葉が通じなくてもお互いの言いたいことがなんとなく分かり、最初自分が思っていたよりも全然通じ合うことができました。

研修をしている中で、それを実感したことが2つあります。1つは、韓国の高校生との交流です。私は初めこの交流をすることを聞いた時は、おもしろそうという気持ちの反面、少し怖いという気持ちがありました。それは、自分がそんなに積極的に人に話せるような性格ではないこと、同世代だからこそ大人の人と違って自分達で接して仲良くなれないといけないという理由からです。高校に着いて学食を食べる時私は、本当にどうすればいいのか何を話せばいいのか分かりませんでした。しかし隣にいた韓国の高校生の女の子達が話しかけてくれて名前を聞きあったりすることができました。その中にいた女の子が自分のお兄さんが日本にいて「ブリーチ」が大好きだと話してくれました。韓国の学校で日本のアニメの話がでてきたことは私自身少しほっとしましたし、日本人としてうれしかったです。給食を食べた後、ナンタという伝統的な太鼓の踊りを見ました。とても迫力があり、見ていておもしろかったです。だから見終わった後「一緒にやりませんか？」と言われた時はびっくりしました。ソウル観光高校でやっていたナンタは日本で言う太鼓を使ったパフォーマンスで言葉も通じないのにどうするんだろうと思っていました。私の所には昼食の時話した女の子達ともう1人男の子がきて、見よう見まねで教えてもらい一緒に叩きました。このナンタがとてもおもしろく、言っていることはほとんど分かりませんでした。みんな笑顔で本当に楽しかったです。言葉が通じる訳ではありませんでしたが、確かに国境を越えて仲良くなれた瞬間があったと思いました。

もう1つはROIゲストハウスでの最後の夕食です。それまでの夕食は私達は外のお店で食べていましたが、最後だからといってROIゲストハウスのオーナーさん達がプルコギ(焼き肉)をご馳走してくださり、一緒に夕食を楽しみました。またROIゲストハウスには私達以外にもフィンランドから来ていたダニエルさんそしてフィリピンから来ていた家族の方が泊まっておられ、途中からその人達も加わり、夕食を楽しみました。フィンランドの方やフィリピンから来た方々はその日初めて会いましたがとてもフレンドリーな人達で、日本語を教えてそれをリピートしたり、写真を撮ったりと、とても楽しい夕食になりました。その時間はほんとに数時間と、とても短い時間でしたが気が付けばその部屋には4カ国の人達で、文化も国も言葉もちがうのにしっかりとコミュニケーションが取れ、本当にいい思い出になりました。こんなに一度にいろんな国と人達とふれあう機会というのはないと思うので自分自身とてもいい経験になったと思います。

またこの研修でホームステイという経験を私は初めてしました。事前にホームステイ先の

人は日本語が話せることを聞いていましたがやっぱり不安でした。でも、それまでたくさんの人とふれあってきたこともあり、積極的にホームステイ先のお姉さんと話せたと思います。韓国の家庭は日本と似ていることもありましたが、飲み物がちがったり、やっぱり日本とちがってお風呂ではなくシャワーだったりと少しずつちがう所がありました。持っていったお菓子のお土産を渡すと、ホームステイ先のお母さんがとてもよろこんで下さりうれしかったです。朝ごはんは、その家庭でしか食べられない、それぞれの家の味付けがあるので、こういう体験ができるのもホームステイのいい所だと思いました。

全体を通してこの研修で私が成長できたなと思うことは、コミュニケーション能力と積極性です。また、行く前と行った後で韓国という国の印象がかなり変わり、多くのことを学ぶことができました。言葉が通じなくてもたくさんの人と触れあい仲良くなり、コミュニケーション能力の大切さを実感しましたが、ボランティアをするとやはり言葉が通じないと難しいと思う場面もありました。韓国では地下鉄や電車などで全然知らない人でも立っている人で重そうな荷物を持っていたら、「持ちましょうか？」と声をかけるそうです。こんな風に日本でも積極的に手を差しのべることができたらとてもいいなと思います。この研修で得たものを日本の普段の生活の中で使っていけるようにしていきたいと思います。また将来、韓国語をもう少し話せるようにして、韓国にボランティアに行きたいと思います。今回の研修は、本当に有意義でした。ロータリーの皆様にお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。



ソウル観光高校（ナンタ体験）

韓国研修の感想

出雲北陵高校 2年
兵庫 実奈美



私にとって今回の韓国研修は初めての海外旅行やホームステイを体験することができました。また、5泊6日という長い期間初めてのことがたくさん起こり、友達も初めて会う人ばかりだったので、韓国に行くまでは初対面の人と6日間も長い間楽しくすごせるのだろうか、なにもトラブルなくこの研修が終わるのだろうか、と不安でいっぱいでした。しかし韓国に行く当日になると楽しみな気持ちがどんどん大きくなっていきました。韓国では、行く前にあった不安に反して、みんなとも仲良くなれたし、5泊6日という長旅もなんのトラブルもなく楽しく過ごすことができました。韓国のいろいろな所を巡って印象的だった所は3つあります。

1つ目は聖アンナの家という老人ホームでのボランティア活動です。「聖アンナの家」はおばあさんだけの老人ホームで、ふき抜けや講堂、畑などがあつたりしてとてもきれいでした。最初は施設長の話を聞きました。施設の説明やおばあさん達との接し方などを教えてもらい、施設の中だけでなく役立つ事もあったのでとてもよかったです。次にへやを回って歌を歌いました。おばあさん達がとってもやさしくむかえ入れてくださってとてもうれしかったです。うまく歌えたのかわからなかったけど、よろこんでくださったのでよかったです。次にボランティアをしました。日本語が通じなくてジェスチャーや英語を使ってそこで働いているお姉さんたちとコミュニケーションをとりました。普段私たちが老人ホームで手伝いをさせてもらう時とは違い韓国語の中だったので何をしていいのか、本当に役に立っているのかわからず、この時は少しでも韓国語を憶えてくれば良かったと思いました。次におばあさんと一緒に車椅子で施設内を散歩しました。歌を歌ってくださったりしてとても楽しかったです。しかし、おばあさんがせつかく話しかけてくれているのに理解が出来なかったりすると少し残念でした。老人ホーム「聖アンナの家」では、言葉の壁を痛感しました。しかし、おばあさんや施設の人が優しく接してくださったのでコミュニケーションもちゃんととれて良かったし、楽しかったです。

2つ目はソウル観光高校です。校内は広く緑がとても多くてきれいな学校でした。学食を韓国の学生と一緒に食べたり、ナンタを見せてもらったりしました。学食と一緒に食べた時、自己紹介をしたりしたのですが、韓国の高校生は大人っぽく感じました。ここでもジェスチャーと英語を使いコミュニケーションを取ったのですが、韓国の学生さんが日本語を調べて話したりしてくれてうれしかったです。ナンタはとても迫力があり、とても楽しそうに演奏しておられたので、見ている側もとても楽しくなりました。見終わってから、ナンタを体験させてもらったのですが、リズムをとりながらたたくのは、結構難しかったです。しかし、韓国の学生さんが丁寧に教えてくださったので最後の方は結構うまくできるようになったと思います。衣装も着せてもらったりしたので、とても楽しく、時間が過ぎるのが早く感じました。ソウル観光高校は、授業にカジノがあるらしく、びっくりしました。とても楽しかったし外国の高校生とふれ合う機会はそんなになのでいい経験になりました。

3つ目はホームステイの事です。私は人見知りなのでホームステイも初めての事だったので初めはとても不安でした。ホームステイ先に行く前にみんなでソウルの町を観光した時も恥ずかしくて、ホームステイ先のお兄さんとそんなに話すことができず一緒にホームステイする

子と話していました。けど慣れていくと普通に話すことができるようになり、話をしていくうちに、その人が優しくて、おもしろい人なんだなと思うようになりました。また、ソウルの町の観光が終わってから、食事に行く時や地下鉄でホームステイ先のお兄さんの家に着くまでずっと2人分のキャリーバッグを持ってくれました。その時は本当にありがたかったし、いい人だなと思いました。その日の夜は少しだけ話をしてから寝ました。次の日の朝、朝ごはんを食べてすぐにみんなと合流するために集合場所の駅まで行きました。その間もホームステイ先のお兄さんはキャリーバッグを持ってくれたり、電車の中でも他の所に席があいているのに私たちの前に立ってずっと話をしてくれました。その時も楽しくて時間が流れるのを早く感じ、もう少し話せたらよかったのにと感じました。集合場所の駅を離れると同時にさよならだったので、たった1日だけしか一緒に過ごしてなかったけれどさみしかったです。ホームステイは、初めてだったので不安だらけだったけどとても楽しくすごすことができました。また韓国の家庭も日本の家庭もそんなに変わらないのだなと思いました。楽しかったのでまた機会があればホームステイをしてみたいと思っています。

今回の韓国研修はいろんな事が体験できてとても自分が成長したと感ずることができました。何よりとても楽しく過ごすことができたので自分にとってとても意味のある研修になったと思います。韓国で出会った人々も良い人ばかりだったし、韓国という国がとても近い存在に感じました。機会があればまた韓国へ行ってみたいと思います。

今回の研修は、とても有意義でした。このような貴重な機会を作って下さった、ロータリークラブの皆様や先生方に「ありがとう。」と言いたいです。



「聖アンナの家」でのボランティア